

## 和歌山県海南市

### 交流・観光人口増を目指した

### エリア体験型観光コンテンツ開発



#### 【活動の基本情報】

参加学生数：9名（1年生：3名、2年生：4名、3年生2名）

活動期間：2020年6月～2023年1月

担当教員：八島雄士

#### 1. 活動実施の経緯

「交流・関係人口増を目指したエリア体験型観光コンテンツ開発」をテーマとしている。活動地である海南市下津町大崎地区には「げんき大崎館・かざまち」が設置（H27年）されて以来、毎週土曜日の朝市や各種体験交流イベントの開催等、地域内経済の循環をはじめ、地区内外の住民にとって貴重な交流の場を提供してきた。しかしながら、著しい高齢化の進行により、交流人口・関係人口を増やすことが急務であるとの認識から、大学生等「よそ者・若者」の目線から地域の資源を再発見することの必要を痛感し、学生と協働でのプロジェクトの立ち上げが企画された。

#### 2. 活動の内容

今年度は継続5名（3年生2名は相談役）、新規4名（1年生3名）が活動に参加した。活動規制が昨年より緩和され、活動しやすくなった。7月の交流イベントでは、メニュー作りから関わり、ブルーベリー・マリトッツォ作り体験を担当した。また、2年生は提案した周遊マップづくりに、大崎のゲストハウスに宿泊をしながら取り組んだ。1年生は「大崎を知る」をテーマに、空き地掃除の手伝い、海釣り体験などの活動をした。はじめに大崎の方々と協力しながらイベント運営をしたことで、1年生もコミュニケーションをとりやすい環境ができた。その後、オンラインミーティングや現地訪問しながら意見交換する中で出てきたアイデアを実際にトライしてきた。

#### 3. 活動を通じて

地域の方々から「今年は活動できる機会が増えてよかった」、「学生の視点で、楽しいと思うことを実践し、来年度も新たな観光のコンテンツを発見してほしい」との意見をいただいた。次年度に向け、深夜の星空や早朝の海辺などに目を向け、これらを発展させ、弁天島等の新たな場所や、周遊マップをより詳しくすることなどを目標に活動したいと考えている。

#### 4. 成果ポスター



長谷川珠希③ 平野瑞穂②  
 武子遼希② 金田杏平①  
 佐野穂奈美② 若井泰斗①  
 藤田理瑚② 牛丸愛帆①  
 番場麻帆② 八島雄士先生

#### 【基本情報】

★海南市とは  
 海南市は和歌山県の北西部沿岸に位置する人口約5万人の市。  
 ★活動状況  
 私たちは海南市の中でも北西にある大崎地区を主な活動地としています。  
 今年は昨年よりも規制が緩和されたということもあり、現地訪問を数回行い、  
 地域の方々と交流を深めることができました。  
 ★活動メンバー  
 3年生2人、2年生4人、1年生3人の計9人で活動しています。



#### 【活動内容】

#### 7月：ブルーベリーマリトッツォづくりのイベント開催

私たちメンバーは参加者に材料や道具を提供し、作り方を教えました。  
 ブルーベリーは大崎の畑で育てられたものであり、当日参加者自身が  
 ブルーベリー摘みをしてそれを材料として使用しました。  
 材料、道具の用意や集客などは大崎の方々と協力して行いました。



#### 10月：大崎地区に宿泊、周遊マップ作りへ

私たち2回生は複数回の訪問や大崎地区の宿泊施設「百船入」に宿泊し  
 実際に地区の訪問者になることで、現在の大崎を「外から見る」ことを  
 中心に活動しました。深夜の星空や早朝の海辺などの新しいコンテンツの  
 発見のほか、地域の方々や夜ご飯をいただいたりなど交流を深める  
 機会にもなりました。これらの成果は周遊マップという形で  
 広報活動にもつなげていく予定です。

#### 11月：1回生を中心とした現地訪問、さらなる魅力発見

私たち1回生は「大崎を知る」ということをテーマに活動しました。  
 空き地掃除のお手伝いや海釣り体験をさせていただくなかで大崎の魅力  
 を発見することができたように思います。今年度の活動では、大崎の方々  
 のご厚意に甘えてしまっていた部分が多かったように感じるため、来年度は  
 地域に還元できるような活動を計画したいと考えています。



#### 【地域の方々の声】

「はじめはコロナ禍で中々活動ができなかったが、今年から活動  
 ができる機会が増えてよかった。」「学生の視点で、楽しいと思う  
 ことを実践し、来年度も新たな観光のコンテンツを発見してほし  
 い。」など、地域の方々からの期待のお言葉をいただきました。



何時も温かく向かい入れてくださり、協力して  
 くださる皆さんありがとうございます！

#### 【今後の展望】

来年度は、オンラインでの交流などを増やし、大崎の方と学生が意見を交換する機  
 会を増やしたいです。今年は、主に現地訪問を行いました。企画や準備を1から  
 行ったイベントは多くなかったです。来年度は、私たち学生が企画や準備の段階  
 から計画し、今年度よりさらに能動的に活動したいです。来年度は、大崎の弁天島を  
 利用したコンテンツを考えたり、周遊マップの内容をさらに詰めたりする予定です。

## 合同報告会 当日の様子

和歌山県海南市

テーマ：交流・関係人口増を目指したエリア体験型観光コンテンツ開発

今年度の活動について年間の流れに沿って発表しました。地域の皆様も最前列で発表を聞いてくださり、活動を地域の方々と改めて振り返ることができました。本 LPP は参加学生が 9 名と比較的少数（合同報告会当日の参加者は 5 名）であることから、発表のどの項目を担当しても報告できるレベルまで、全員が活動に携わっていること



を、発表を通じて認識することができました。報告ではパンフレットを見せたり、2 年生の成果物である「大崎周遊 MAP」を見せたりしながら発表したことで、参加者の方々に興味を持ってもらえたと思います。発表後、地域の方から「良い発表だったよ」と直接お声がけいただいたことが何よりも嬉しかったです。コメントシートの質問への回答です。

Q. 「マリトッツオのイベントの目的は何？」

A. 「げんきかざまち」で行われる夏祭りに、何か企画をやってみないかというお話をいただき、私たちが今後アクションを起こすための準備運動という目的で企画をしました。大崎のブルーベリーを使用したマリトッツオ作り体験は、大学生らしいアイデアとして好評をいただきました。

Q. 「マップ作りの詳細が知りたい。」

A. 2 回生が、何か大崎に残るものを作りたいという思いから作成しました。粗削りな部分もたくさんあるため、次年度以降のブラッシュアップに期待です！